

JAグループ宮城 災害復興ニュース (総合版)

第100号

【平成29年10月3日(火)発行】
発行：JAグループ宮城災害復興本部
編集：JA宮城中央会
〒980-0011 仙台市青葉区
上杉1丁目2番16号 JAビル宮城 6F
電話番号：022-264-8207
FAX 番号：022-216-4466

《目次》

1. 「東北・みやぎ復興マラソン」初開催。JAグループ宮城がマルシェやボランティア参加
2. 宮城県勢が総合4位と大躍進！ 宮城全共で全国の支援に感謝し、復興をアピール
3. 「農家所得向上につながる政策を」。与党国会議員を招き都内でJA代表者要請集会
4. 原発事故農畜産物損害賠償で東電に約920万円を請求

1. 「東北・みやぎ復興マラソン」初開催。JAグループ宮城がマルシェやボランティア参加

JAグループ宮城は1日、東日本大震災で被災した宮城県沿岸部を走る「東北・みやぎ復興マラソン」の「復興マルシェ」に出店しました。

野菜や6次産業化商品などを販売、支援に感謝し、復興をアピールしました。JA全農みやぎは、完走したランナーをねぎらい、赤飯おにぎり約1万4,000個を配りました。

大会は仙台放送が主催し、JAグループが特別協賛。フルマラソンには全国47都道府県から約1万2,000人が参加し、岩沼市の岩沼海浜緑地を出発。亘理町、名取市のかさ上げ道路など、復興途上の沿岸部を走り抜けました。6キロを走るファンランには約2,000人が出場しました。

復興マルシェでは、JA名取岩沼が特産の「仙台せり」、JAみやぎ亘理が「いちごジャム」や「アセロラで酢」など、JA仙台は大豆を使ったチョコやクッキーなどの「仙大豆」シリーズ商品を販売しました。



フルマラソン上位入賞者には「みやぎ米」を贈呈しました



ゴールまであと少し。力を振り絞るランナー

全農みやぎは甘酒や「お米のミルク」などを無料で提供、JA宮城中央会は「みやぎ米」が当たるゲームを行い、全国から集まった人たちに、米どころ宮城をPRしました。

また、県内5JAと連合会県本部職員など約110人が、給水所でボランティアとして活躍。水や被災農地で栽培したミニトマトなどを配りました。



大勢の来場者でにぎわったJAグループのブース

2. 宮城県勢が総合4位と大躍進！ 宮城全共で全国の支援に感謝し、復興をアピール



審査会場に集結した入賞牛（9月11日、夢メッセみやぎで）

5年に1度開かれる“和牛のオリンピック”第11回全国和牛能力共進会宮城大会（公益社法人全国和牛登録協会主催）が、9月7日から11日まで、仙台市の夢メッセみやぎと仙台市中央卸売市場食肉市場で開かれました。期間中、予想を上回る約41万7,000人が来場。夢メッセ本館展示棟には、震災復興エリアを設け、東日本大震災からの復興と支援への感謝を伝えるパネルなどが展示されました。

大会には全国39道府県から選抜された和牛527頭が集結。宮城県勢は9区分中、8区分で入賞し、団体表彰で過去最高の総合4位に躍進しました。中でも、2区で登米市の小野寺正人さんが、日本一の優等賞1席に輝き、宮城県勢初の快挙を達成。第4区では優等賞5席のみどりの和牛育種組合が特別賞「肩付賞」を、第5区では優等賞4席の栗原和牛育種組合が特別賞「体積・均称賞」を受賞するなど、全国に県産和牛の銘柄「仙台牛」をアピールしました。

また、今回、新たに設けられ高校生の部「復興特別出品区」では、柴田農林高校が総合4位となる優秀賞3席を獲得しました。



県勢初の日本一を獲得した小野寺正人さん

優等賞1席に輝き、宮城県勢初の快挙を達成。第4区では優等賞5席のみどりの和牛育種組合が特別賞「肩付賞」を、第5区では優等賞4席の栗原和牛育種組合が特別賞「体積・均称賞」を受賞するなど、全国に県産和牛の銘柄「仙台牛」をアピールしました。

3. 「農家所得向上につながる政策を」。与党国会議員を招き都内でJA代表者要請集会

JA宮城中央会と県農協政治連盟は9月22日、地元選出の与党国会議員を招き、東京都内でJA代表者要請集会を開きました。平成30年産以降、米の直接支払交付金が廃止されることで、現場に不安と動揺が広がっていることから、農家の所得向上につながる農業政策の充実などを求めました。



JA組合長など26人が上京。JA自己改革は、自主性を尊重し、政府が過剰に介入せず、組織の見直しなどを強制しないことも要請しました。

あいさつする高橋会長㊟（9月22日、東京都千代田区で）

自民党の愛知治郎、秋葉賢也、西村明宏、伊藤信太郎、勝沼栄明の5議員と公明党の井上義久幹事長が出席しました。

要請は、米の直接支払交付金の廃止に伴う財源を、農家所得向上に直接つながるよう活用すること、需給調整機能を担う全国再生協設置の再検討、など7項目をあげました。

高橋正会長は「大規模経営体だけでなく、中山間地で頑張っている農家の努力が報われる、きめ細かな政策が急務だ」と現場の声を伝えました。

自民党県連会長の愛知議員は「環境・観光政策と一緒に、中山間地農業を守っていく政策を考えていきたい」と語りました。

4. 原発事故農畜産物損害賠償で東電に約920万円を請求

JAグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は9月20日、仙台市で第56回総会を開き、東電への第73次請求を約920万円とすることを決定、29日に請求しました。内訳は、牧草の利用自粛等に係る損害が597万円、林産物の出荷停止に係る損害が220万円、牧草地の除染に係る損害が97万円など。

8月31日現在、請求総額は約327億400万円、受領総額は314億5,900円で、請求対比96・2%となっています。

以上